

## 発掘調査体制について

## 1 平成31年度発掘調査体制

## (1) 加曽利貝塚の解明のための調査

- ・平成29年度から発掘調査を実施してきた体制を継続し、埋蔵文化財調査センターの職員2名が発掘調査を担当する。
- ・発掘調査期間中、非常勤の発掘調査員を雇用し、担当職員の業務を補助する（2名/日程度）。

## (2) 加曽利貝塚の整備に伴う調査

- ・(1)の担当者が調査を担当することとし、調査期間が重複しないよう、12月以降に遺構確認調査を実施する。

## 2 今後の調査研究体制について

## (1) 当面の調査研究体制について

- ・平成31年度は現状の発掘調査体制を継続する。
- ・出土資料の整理作業は埋蔵文化財調査センターで行う。
- ・平成32年度以降の調査研究体制について、より円滑な実施体制について調整を進める。

## (2) 将来的な調査研究体制について

- ・平成31年度以降、新博物館の基本計画を検討するなかで、文化財課と加曽利貝塚博物館、埋蔵文化財調査センターの役割を見直し、新たな調査研究体制の方針をまとめる。
- ・基本計画の検討にあたり、千葉市史跡保存整備委員会へ諮問する。
- ・基本計画を策定した後、同計画で示す調査研究体制の方針に基づき、計画的かつ継続的な専門職員の採用に向け、調整を進めていく。

## (3) 現状の問題点について

- ・加曽利貝塚の発掘調査・整理作業に年間を通じて専従できる職員が確保できていない。  
2019年度～ 加曽利貝塚の整備に伴う調査に着手  
2020年度～ 整理作業に着手
- ・縄文時代を専門とする職員が少ない。
- ・動物考古学を専門とする職員がいない。

専門職員(考古)年齢構成 2018年度

年齢	正規/嘱託				所属別				
	正規	嘱託	計	うち縄文	課	センター	加博	その他	計
21～25	0	1	1	0	0	1	0	0	1
26～30	2	0	2	1	1	1	0	0	2
31～35	1	1	2	0	0	1	1	0	2
36～40	2	0	2	0	1	0	1	0	2
41～45	1	0	1	0	1	0	0	0	1
46～50	2	0	2	1	0	1	0	1	2
51～55	2	0	2	1	0	2	0	0	2
56～60	1	2	3	2	0	2	1	0	3
61～65	1	1	2	0	0	1	0	1	2
合計	12	5	17	5	3	9	3	2	17